

問1 中京工業地帯の一角を担う四日市港の貿易に関する説明として、その輸出の背景や現状を正しく述べているものを選んでください。（2021年 滋賀公立入試 類似）

- 輸出額において国内有数の規模を誇り、自動車や半導体等製造装置などの高付加価値な工業製品を中国などの近隣諸国へ送る拠点となっている。
- 日本最大の輸出額を誇る港であり、主にアメリカ合衆国に向けて食料品や衣類などの生活物資を大量に輸出している。
- 近畿地方の工業化を支える中心港であり、かつては鉄鋼の輸出が中心であったが、現在は原油の輸入のみに特化している。
- 九州地方を代表する港として、自動車の輸出額が全国1位であり、東南アジア諸国との貿易が総額の半分以上を占めている。

問2 中部地方の農業について、東海地方で盛んに行われている農業の特色と、その代表的な生産地である半島名の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2019年 鳥取公立入試 類似）

- 渥美半島における施設園芸農業
- 房総半島における施設園芸農業
- 渥美半島における米の二期作
- 能登半島における果樹栽培と酪農

問3 東海・北陸地方の各県の統計において、人口が300万人を超え、工業出荷額の中で自動車などの輸送用機械の割合が突出して高い県と、人口が約100万人で、非鉄金属工業の出荷額が他の工業分野に比べて目立っている県の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 埼玉公立入試 類似）

- 静岡県と富山県
- 静岡県と長野県
- 岐阜県と富山県
- 長野県と岐阜県

問4 中央高地の気候的特徴である「夏でも涼しく、冬の寒さが厳しい内陸部」という条件を活かした長野県などの農業の取り組みとして、適切なものはどれですか。（2022年 福岡県公立入試 類似）

- 冬の温暖な気候を活かして、他の地域よりも早く出荷する促成栽培が盛んに行われている。
- 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。
- 冬の積雪を水源として利用し、広大な平野で大規模な稲作が行われている。
- 年間を通じて降水量が少なく日照時間が長いこと、山の斜面を利用してミカンなどの果樹栽培が行われている。

問5 日本の気候区分のうち、1月の最低気温が2度前後まで下がり、冬の降水量が夏の約2.6倍に達するような、冬に降水が集中する特徴を持つ気候帯はどれですか。（2023年 沖縄公立入試 類似）

- 日本海側の気候
- 太平洋側の気候
- 瀬戸内の気候
- 中央高地の気候

問6 北陸新幹線が福井駅から軽井沢駅の間を走行する際、車窓からは中部地方特有の険しい山岳景観を望むことができます。この路線の北側に広がる飛騨山脈が、周辺地域の生活や産業に与えている影響や特徴を説明したものと、背景や位置関係が最も適切なものはどれですか。（2024年 福井公立入試 類似）

- 飛騨山脈は大規模な砂防ダムや水力発電所が建設されるなど、急峻な地形を利用した開発が行われてきた。
- 飛騨山脈は標高が低く平坦な土地が多いため、新幹線の沿線には広大な工業団地が形成されている。
- 飛騨山脈は太平洋側に位置しているため、冬には乾燥した季節風を遮り、北陸地方に晴天をもたらす要因となっている。
- 飛騨山脈は四国地方と中国地方の境界をなしており、古くから交通の要所としてトンネル整備が進んでいた。

問7 富山市における昭和中期から平成にかけての地域変化について、JR富山港線沿線の状況を説明した文として、背景や要因を含めて最も適切なものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

- 通勤や通学の利便性が高い鉄道沿線の土地が需要を増したため、水田だった場所が大規模な住宅地として整備された。
- 富山城址の北東にある市役所の移転に伴い、その周辺の広大な水田がすべて官庁街へと作り替えられた。
- 米の生産過剰を解決するために、政府の主導によって鉄道沿線の水田がすべて工場用地や商業ビル群に転換された。
- 地価の安かった県庁付近の畑地が、人口の過密を解消するために新興住宅地として再開発された。

問8 日本の北陸地方では、江戸時代から続く技術を継承した伝統的工芸品が多く生産されています。石川県において生産されている伝統的工芸品の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）

- 輪島塗・加賀友禅・九谷焼
- 越前漆器・越前和紙・輪島塗
- 高岡銅器・加賀友禅・山中漆器
- 輪島塗・越前和紙・九谷焼

答え合わせ・解説

問1	答え 1 輸出額において国内有数の規模を誇り、自動車や半導体等製造装置などの高付加価値な工業製品を中国などの近隣諸国へ送る拠点となっている。	四日市港は三重県に位置し、中京工業地帯の高度な製造業を支えています。輸出額が東京港に次ぐ水準にあるという事実は、この港が自動車や半導体関連といった日本の基幹産業の出口となっていることを示しています。輸出相手国が中国や韓国に集中しているのは、サプライチェーン（供給網）がアジア圏内で密接に構築されているためです。
問2	答え 1 渥美半島における施設園芸農業	愛知県の渥美半島では、太平洋側の温暖な気候を背景に、ビニールハウスや温室などの施設を活用して花や野菜を栽培する「施設園芸農業」が非常に盛んです。特に菊の成長を光で調節する電照菊の栽培は全国的に有名です。房総半島は千葉県（関東地方）に位置し、米の二期作はかつての高知県などで見られた形態です。また、能登半島は北陸地方に位置するため、東海地方の説明としては不適切です。
問3	答え 1 静岡県と富山県	静岡県は東海工業地域の一角をなし、輸送用機械（自動車・オートバイなど）の製造が極めて盛んで、人口も300万人を超える大きな規模を持っています。一方、富山県は人口約100万人規模であり、北陸地方の急峻な河川を利用した水力発電による豊富な電力を背景に、アルミニウムなどの非鉄金属工業が発展したという特色があります。
問4	答え 2 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。	中央高地の長野県や群馬県の高原地帯では、標高が高く夏でも涼しいという気候を活かし、他の地域では生産が難しい夏から秋にかけてレタス、キャベツ、ハクサイなどを栽培しています。これを「抑制栽培」と呼び、都市部の需要が高まる時期に出荷することで高い収益を上げています。冬の寒さが厳しく氷点下になる中央高地では、温暖な気候を利用する促成栽培やミカン栽培は適していません。
問5	答え 1 日本海側の気候	日本海側の気候は、北西の季節風の影響を強く受けるため、12月から1月にかけての降水量（降雪量）が非常に多くなるのが最大の特徴です。提示された統計情報の通り、夏の降水量が150mm程度であるのに対し、冬の降水量が400mmに達する傾向は、太平洋側の「冬に乾燥し晴天が続く」特徴や、瀬戸内の「年間を通じて降水量が少ない」特徴とは明らかに異なります。
問6	答え 1 飛騨山脈は大規模な砂防ダムや水力発電所が建設されるなど、急峻な地形を利用した開発が行われてきた。	飛騨山脈（北アルプス）は3000メートル級の山々が連なる急峻な地形であるため、冬の積雪が多く、急流を利用した水力発電が盛んです。また、土砂災害を防ぐための砂防事業も古くから行われてきました。北陸新幹線のルートはこの険しい山塊の北端付近を通っており、トンネル技術の向上によって安定した輸送が可能になりました。他の選択肢については、飛騨山脈が日本海側に近く、冬の湿った季節風を受けて北陸に豪雪をもたらす要因であることや、場所が中部地方であることを考慮すると不適切です。
問7	答え 1 通勤や通学の利便性が高い鉄道沿線の土地が需要を増したため、水田だった場所が大規模な住宅地として整備された。	都市の拡大（スプロール現象や計画的な宅地開発）は、多くの場合、主要な交通網に沿って進行します。JR富山港線沿線において、戦後直後の地形図で「水田」の記号で埋め尽くされていた場所が、平成の地図で「住宅地」を示す網掛けに変わっているのは、鉄道という交通インフラを軸に居住エリアが郊外へと広がったことを示しています。選択肢にある「県庁が畑地にあった」という記述や「市役所の移転」は、このエリアの主たる土地利用変化の直接的な説明には当てはまりません。
問8	答え 1 輪島塗・加賀友禅・九谷焼	石川県には、能登地方の輪島塗、金沢周辺の加賀友禅や金沢箔、九谷焼、加賀地方の山中漆器など、数多くの伝統的工芸品が集中しているのが特徴です。選択肢に含まれる越前漆器や越前和紙は福井県、高岡銅器は富山県を代表する伝統的工芸品であり、県ごとの産地の違いを整理しておくことが重要です。